

■開幕式と第1回活動報告

(開 幕 式 2007年11月12日 華東師範大学)

(第1回活動 2007年11月13日、14日 長沙師範専科学校)

★開幕式

2007年11月12日、上海華東師範大学にて、本プログラムの開幕式が行われました。華東師範大学学前教育研究所所長の朱家雄先生と小林登CRN所長の間で、調印式とテープカットの儀式が行われ、プログラムの長期的な継続のため、お互い協力していくことが約束されました。



★講演&幼児教育展覧会

小林登 (CRN所長、東京大学名誉教授)、多田千尋 (おもちゃ美術館館長)、朱家雄 (華東師範大学教授)、安梅勸江 (筑波大学教授)、榊原洋一 (お茶の水女子大学教授) ※名前は登壇順

2007年11月13日、14日、毛沢東の恩師が設立した長沙師範専科学校で日本幼児教育展覧会と日本の研究者より集中

講義が行われました。「子ども学」の視点を踏まえて、5名の先生方が脳科学、医学、育児、遊びというテーマで、それぞれのご専門の立場から育児・保育・教育について論じました。

初日は、湖南省政府の要人、湖南省幼児教育委員会の幹部などが挨拶を行い、500名近くの幼児教育関係者が出席しました。小林登CRN所長は、情動の「子ども学」という題で、「生きる喜びいっぱい Joie de Vivre」は、子どもの心身発達にとって必須であると、脳科学の知見を織り込んだ講演を行いました。

学際的、総合的に子どものことを考える「子ども学」の理念に、中国の幼児教育の先生方から多くの賛同を得られました。



2日目は200名近くが出席し、日本からの先生方の講義+演習、デモなどを交えてtwo-wayの交流を行ないました。講演期間中は、日本の幼児教育に関する展覧会も同時開催し、中国の幼児教育現場の先生方に、日本の幼児教育の歴史や玩具を知ってもらう良い機会となりました。

2 CRN設立10周年記念国際シンポジウム

★子ども学から見た少子化社会-東アジアの子どもたち-

大江健三郎 (作家)、韋鈺 (東南大学教授・中国)、榊原洋一 (お茶の水女子大学教授)、李根 (梨花女子大学教授・韓国)、朴正漢 (テグ・カトリック大学教授・韓国)、周念麗 (華東師範大学副教授・中国)、原田正文 (大阪人間科学大学教授) ※名前は登壇順

2007年2月3日、国連大学ウ・タントホールでCRN設立10周年記念国際シンポジウムが開催されました。シンポジウムのテーマは「子ども学から見た少子化社会-東アジアの子どもたち-」。

この国際シンポジウムでは中国、韓国、日本3か国の学者により少子化社会の現状を踏まえた、子どもの成長、養育環境についての活発な議論がなされました。

午前中はノーベル賞作家の大江健三郎先生が、「子ども-人間の未来」のモデル」をテーマに特別講演を行い、続けて中国前教育部副部長、東南大学教授韋鈺先生が「脳科学と教育」をテーマに基調講演を行いました。午後は「子どもの成育環境としての少子化社会を考える-一日中韓の研究を中心に-」というテーマで日中韓3か国の研究者がシンポジウムを開き、各国の子どもの視点からみた少子化の現状および背景と問題点について、エビデンスに基づいた討論が行われました。

このシンポジウムは、1996年に設立されたCRNの活動10

周年を記念して開催しました。小林登CRN所長は講演者や参加者への謝辞の中で、これからの展望を以下のように示しました。「私は、Ellen Key の理想を追って、新しい意味で「21世紀こそ子どもの世紀」にする為、世界的なネットワークを作り、力を合わせて努力する事が重要であると、現在考えています。」



東アジア子ども交流プログラム及び国際シンポジウムの講演の詳細はCRNホームページの「イベント情報を見る」に掲載しています。そちらをご覧ください。

<http://www.crn.or.jp/LIBRARY/EVENT/sympo07/index.html>